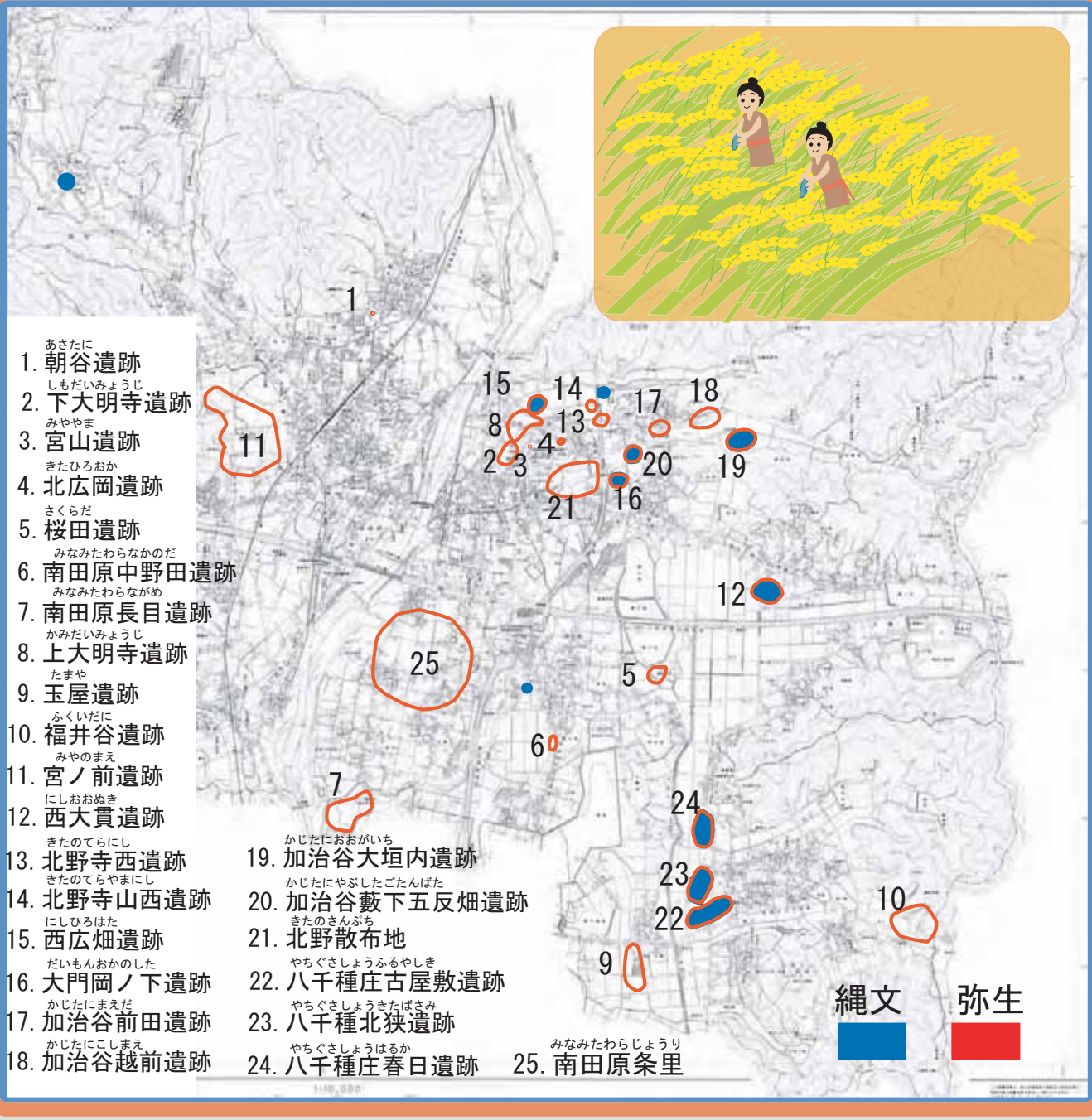
弥生時代

福崎町内では、弥生時代の稲作文化は弥生前期には、伝わってきていると考えられます。稲作の伝わってきた証拠として、西田原宮山遺跡で見つかった土器があります。この土器は、土器を作る時についた“もみ”の跡が残るものや南田原条里遺跡からは、収穫の時期に稲を刈る道具としての“石包丁”が見つかっています。また糸をよるために使用した“土製紡錘車”など新しい文化が入ってきています。また水や稲を蓄えるための壺も多く見つかっています。またお墓の存在を示す、土器の棺や円形周溝墓なども見つかっています。弥生土器は、弥生中期になると中播磨地域と同じように土器の装飾が強くなり丸い浮文や刺突文や竹などを使って模様をたくさんつけたりしています。集落にいては、弥生時代前期の遺跡数は少ないものの、中期から中期後半になると遺跡数が増え後期になる集落の数が減る傾向があります。また後期には町内全域を見渡せる南田原長目遺跡のように高いところへ移動しています。このような高い所へ集落が営われた理由のひとつとして、南田原長目遺跡からは石鏃が多数見つかっており、争いがあったため、見張らしのよい所へ集落を営む必要性があったと考えられます。



稲

籾の痕跡

土器のはへん

西田原宮山遺跡

土器は、土や粘土、水、砂を混ぜながら作り、乾燥させます。その乾燥させる間に土器を置いている板や作業近くに稲のもみがあると付着し、土器を野焼きしたあともみは高温に焼かれ炭化物となり姿が消えてしまいますが、もみの抜けたあとが残ることがあります。またこのように土器に付いてしまうほど身近なところに籾があることから、土器作りを行うのは、稲を刈り取った収穫後の秋から冬にかけて土器作りしていたと考えられます。このことから弥生人の１年の活動サイクルも読み取ることが出来ます。

塩

製塩土器

西治下代ノ下モ遺跡

魚

土製のおもり

南田原長目遺跡

蒸

甑の底に１つ穴を開けて蒸し器として利用しています。

甑

南田原長目遺跡

糸

土製の紡錘車

南田原長目遺跡

土器

スタンプ土器

南田原長目遺跡

壺

上大明寺遺跡

土器の蓋

西広畑遺跡（弥生時代後期）

石

石剣　個人所蔵品

南田原長目遺跡

石鏃

祭

分銅形土製品は、岡山や中播磨地域でよく見つかる遺物です。

分銅形土製品

南田原長目遺跡

祭祀用の土器

西田原宮山遺跡

墓

甕棺

西田原宮山遺跡

壺棺

朝谷遺跡

縄文
弥生
古墳
飛鳥
奈良
平安
鎌倉
室町
江戸
明治
大正
昭和

ふくさき再発見！！シリーズ④
「弥生時代」
編集・発行：福崎町教育委員会

〒679-2280　兵庫県神崎郡福崎町南田原3116-1
TEL：0790-22-0560　FAX：0790-22-0630
E-Mail:syakai@town.fukusaki.hyogo.jp